

令和8年用さといも・アスパラガス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。
さといも

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
植えつけ前	乾腐病	8F	本畠の土壤消毒。 バスアミド微粒剤 ^④ 10a当たり30kg〔植付21日前まで/1回〕を均一に散布して土壤混和する。	
植えつけ時	アブラムシ類	4A	アドマイヤー1粒剤を10a当たり4kg〔植付時/1回〕植溝土壤混和する。	
生育期	コガネムシ類幼虫	1A	オンコル粒剤5 10a当たり9kg〔60日前まで/1回〕土寄せ時に株元土壤混和する。	
	ハスモンヨトウ	3A 28	トレボン乳剤 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [14日前まで/3回以内] フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/2回以内] 10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 合成ビレスロイド剤(トレボン乳剤、アディオン乳剤)は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。また、抵抗性害虫出現防止のため同一場所での総使用回数は2回以内とする。 2. トレボン乳剤は、葉柄を収穫する場合、収穫7日前までとする。 3. アディオン乳剤は、葉柄を収穫する場合(ずいきなど)、使用回数は2回以内とする。 4. オンコル粒剤5、ウララDF、プレオフロアブル、マイトコネフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、ディアナSCは葉柄を収穫する場合(ずいきなど)は使用しない。
	スズメガ類	5 UN	ディアナSC 2,500倍 (4mℓ/10ℓ) [前日まで/2回以内] プレオフロアブル 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [7日前まで/2回以内] 10a当たり100~300ℓ散布する。	
	アブラムシ類	3A 29	アディオン乳剤 3,000倍 (3.3mℓ/10ℓ) [7日前まで/5回以内] ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ) [7日前まで/2回以内] 100~300ℓ散布する。	
	ハダニ類	20D	マイトコネフロアブル 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [3日前まで/1回] を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. コテツフロアブル ^④ は、ハスモンヨトウにも登録がある。 2. コテツフロアブル ^④ は、葉柄を収穫する場合、収穫3日前までとする。
	カンザワハダニ	13	コテツフロアブル ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [7日前まで/2回以内] を10a当たり100~300ℓ散布する。	

除草剤使用基準(葉柄収穫の場合は基準が異なる)

薬剤名		RAC	10a当たり薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性
土壤処理剤	種芋もしくは苗植付後	3	300~400mℓ/100ℓ	植付後(但し植付7日後まで)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	トレファノサイド粒剤2.5		4~6kg	植付後(但し植付7日後まで)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。(下記※注意事項参照)
茎葉処理剤	種芋植付後	3	4~6kg	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ、キク科雑草には効果が劣る。
	ゴーゴーサン細粒剤F		200~400mℓ/70~100ℓ	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ、キク科雑草には効果が劣る。
茎葉処理剤	バスタ液剤	10	300~500mℓ/100~150ℓ	雑草生育期:植付前又は畦間処理(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。
	ナブ乳剤	1	150~200mℓ/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生イネ科雑草	・選択性で枯死するまで7~10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。

【葉柄を収穫する場合】トレファノサイド粒剤2.5 植付後(マルチ前)(但し植付7日後まで)

バスタ液剤 雜草生育期:植付前又は畦間処理(収穫7日前まで)

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	農薬名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数	成分名	農薬名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数
トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	3	1回	1回	ペンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤F	3	1回	2回以内 (但し、土寄せ後の処理は1回以内)
	トレファノサイド粒剤2.5		1回			ゴーゴーサン乳剤		1回	

アスパラガス

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
生育期	立枯病	3	トリフミン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [7日前まで/1回] を1m ² 当たり3ℓかん注処理する。	1. EBI剤(トリフミン水和剤、ラリー水和剤)は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	斑点病	3	ラリー水和剤 4,000倍 (2.5g/10ℓ) [前日まで/2回以内] を10a当たり150~300ℓ散布する。	2. アミスター20フロアブルは、展着剤の種類によって薬害の恐れがあるので加用しない。また、りんごに薬害を生じるため飛散しないように注意する。
	茎斑病	M1 M5 M7 11	コサイド3000 2,000倍 (5g/10ℓ) [—/—] ダコニール1000 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [前日まで/4回以内] ベルクート水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [7日前まで/5回以内] アミスター20フロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [前日まで/4回以内]	3. アミスター20フロアブルは、耐性菌出現防止のため、連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 4. 茎枯病、斑点病には、Zボルドー500倍 (20g/10ℓ) [—/—]を使用してもよい。 5. Zボルドーは、水稻(穂ばらみ期~出穂期)に薬害が出るので飛散しないように注意する。
	茎枯病	M1 1 2 7	クプロシールド 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [発病前~発病初期/—] を10a当たり100~400ℓ散布する。 ベンレート水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/4回以内] ロプラール水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/5回以内] アフェットフロアブル 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [前日まで/4回以内]	6. 春どり栽培では、収穫打切り直後憩先が開かない時から散布を開始し、梅雨期間中の防除を徹底する。 7. 枯死茎葉は刈り取り、ほ場に残さず適切に処分する。
	ネギアザミウマ(アザミウマ類)	5 34	ディアナSC 2,500倍 (4mℓ/10ℓ) [前日まで/2回以内] を10a当たり100~500ℓ散布する。 ファインセーブフロアブル ^④ 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [前日まで/2回以内] を10a当たり100~800ℓ散布する。	1. ディアナSCは、アザミウマ類として登録があるほか、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガにも登録がある。
	カメムシ類	4A	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] を10a当たり100~800ℓ散布する。	1. スタークル顆粒水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
	ジュウホシクビガハムシアブラムシ類	3A 4A	アディオン乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [前日まで/3回以内] モスピラン顆粒水溶剤 ^④ 4,000倍 (2.5g/10ℓ) [前日まで/2回以内]	1. アディオン乳剤は、ヨトウムシ、カメムシ類にも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤 ^④ はアザミウマ類、コナジラミ類にも登録がある。 3. アディオン乳剤は蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。
	ハスモンヨトウ(オオタバコガ)	UN 28 30	プレオフロアブル 1,000倍 (10mℓ/10ℓ) [前日まで/2回以内] フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/2回以内] グレーシア乳剤 2,000倍 (5mℓ/10ℓ) [前日まで/2回以内] を10a当たり100~500ℓ散布する。	4. フェニックス顆粒水和剤は、ヨトウムシにも登録がある。 5. グレーシア乳剤は、アザミウマ類、ジュウホシクビガハムシ、ハダニ類にも登録がある。

除草剤使用基準 ※センコル水和剤は使用方法が変わったので、特性をよく読んで使用する。

	薬剤名	RAC	10a当たり薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性
茎葉処理剤	クレマート乳剤	3	200~400mℓ/100~150ℓ	萌芽前(雑草発生前)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ガス化しないので、ハウス栽培、マルチ栽培で使用できる。
	トレファノサイド乳剤	3	200~300mℓ/100ℓ	萌芽前または収穫打切後(雑草発生前)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 ・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害があるので使用しない。
	ロロックス	5	150~200g/70~150ℓ	萌芽前(雑草発生前~発生始期)	全面土壤散布	1回	一年生雑草	・広葉雑草に効果が高い。 ・砂質土壤では使用しない。
	センコル水和剤	5	100~150g/100ℓ	萌芽前~萌芽始期または収穫打切後(雑草発生前~4.5葉期)	雑草茎葉散布又は全面土壤散布	1回	一年生雑草	・促成栽培の場合は株堀り取り終了後の使用とする。 ・擬葉にかかると葉先枯などの薬害を生じるので注意する。
	ナブ乳剤	1	150~200mℓ/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫前日まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7~10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300~500mℓ/100~150ℓ	雑草生育期:萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。 ・散布後6時間以内の降雨で効果が低下するので注意する。
	ザクサ液剤	10	300~500mℓ/100~150ℓ	雑草生育期:萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性
	ラウンドアップマックスロード	9	200~500mℓ/50~100ℓ 1,500~2,000mℓ/50~100ℓ	雑草生育期(耕起前まで) 雑草生育期:畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生雑草 スギナ	・少量散布の場合は10a当たりの散布量を25~50ℓとする。 ・吸収移行型除草剤 ・茎葉刈り取り後、越冬雑草に処理しておくと効果が高い。

成分名	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数
グルホシネット及びグルホシネットPナトリウム塩	バスタ液剤 ザクサ液剤	2回以内 2回以内	2回以内